

事業所の概要表

(令和 2 年 10 月 20日現在)

事業所名	グループホームつばさ					
法人名	有限会社 幸心					
所在地	松山市姫原3丁目3-7					
電話番号	089-917-7770					
FAX番号	089-925-7776					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成15年 4 月 15 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	名 (男性 5 人 女性 13 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	12 名	要介護2	0 名
	要介護3	2 名	要介護4	2 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	1 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	3 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 4 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	岡部クリニック・長谷川歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 28 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,350 円 (朝食: 450 円 昼食: 450 円)
	おやつ:	食費に含む 円 (夕食: 450 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	5,000 円
	共同部分維持費	2,500 円
	水道代	2,500 円
	EV・防火用品点検維持	2,000 円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 1 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (消防署職員)	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和2年11月9日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	18	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103169
事業所名	グループホームつばさ
(ユニット名)	1F・2F
記入者(管理者)	
氏名	片岡 俊策 ・ 宮本 優香
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 20 日

<p>【事業所理念】※事業所記入 決しておこらず 決してあせらず 決してあきらめず</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・ケアプランに沿った介護記録を充実する アセスメント・モニタリングシートの改良でよりケアプランに沿った介護記録になった ・口腔ケアを声かけだけでなく、してもらえるように工夫する 口腔ケアシートを導入して口腔ケアを実施している</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 家族には、ユニット別に毎月発行するつばさ新聞で日々の取り組みや利用者の様子を報告している。また、毎週月曜日は事業所ブログを更新して発信している。 玄関内には、文庫本を置いており、来訪した家族や地域の人へ貸出している。事業所でウサギを飼っており、利用者がエサやりをしたり、膝の上に抱いたりしてかわいがっている。 すぐろくゲームを職員が手作りしており、「好きな食べ物は」いつか行ってみたい場所は「好きなテレビ番組は」などのマスを設けて、ゲームを楽しみながら個々の好みが変わるよう工夫している。 時には、食事をバイキング形式にしてプレート皿に好きなものを取って食べる機会をつけている。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用前訪問調査・入所時ご家族協力の下ご本人情報を記載して頂く用紙作成し、入所後も日々会話を待ち寄り添える支援に努めている。	◎		◎	入居前の面談時に、私の姿と気持ちシートを用いて本人の言葉などを記入している。日々の中で聞いた希望や意向は、追記して年1回更新を行い、把握に取り組んでいる。 七夕には、利用者が短冊に願い事などを書いて飾っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	不明瞭な時は、状況をご家族へも報告し把握に努めている。また、職員同士日々意見交換が出来ており、本人にとって良い支援が出来る様努めている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	現在面会が難しい状況だが密着して面会に来られた際にお話しを聞いたり、必要に応じて電話で相談が出来ている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護支援経過を介護記録に常備し、変化や思いを記録し共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日常的に職員同士が話し合ったり、カンファレンス・勉強会でも話し合っているが、職員目線になっている場合もある				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に利用前調査を行い家族より聞いている			◎	入居前の面談時や入居時に、本人や家族から職歴、趣味、日中の過ごし方などを聞いて、利用前調査票にまとめている。 また、家族には、本人についての出来事や趣味などの情報を年代ごとに「〇〇さんの履歴書」の形式に記入してもらっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなど等)等の現状の把握に努めている。	○	カンファレンス等で話し合いをして、現状を把握している				すぐろくゲームを職員が手作りしており、「好きな食べ物は」「いつか行ってみたい場所は」「好きなテレビ番組は」などのマスを設け、ゲームを楽しみながら個々の好みが変わるよう工夫している。
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	普段の様子観察で把握しているが、全ての職員が出来ているわけではない				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	職員同士でその都度対応しているが、全ての要因が掴めているわけではない				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録を活用し、口頭や申し送りでも伝え把握している				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人、家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	把握しやすい利用者もいるが、全てを把握できてはいない			○	3ヶ月に1回、介護計画見直し時のカンファレンスで話し合っている。利用者によっては、カンファレンスに利用者本人も出席している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の介護の中で、本人が望む事を探しその都度話しあっている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスで話しあって決めた課題をモニタリングシートに反映している				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	3ヶ月に1度カンファレンス2カ月に1度の勉強会等で、話し合い利用者の思いの把握に努めている				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ケアプランを家族に説明し、要望を聞き遠方の家族には電話やケアプランの要望欄を用いて聞き取り、作成している	○		○	日々の中やカンファレンス時に聞いた本人の希望と、来訪時や電話で聞いた家族の希望などを踏まえて職員で話し合い、介護計画を作成している。 必要に応じて医師の意見を計画に反映している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その人らしい生活が出来るように支援している				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族にはその都度、協力して頂ける様に伝えていくが、遠方や家庭の事情で難しいケースもある				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス・議事録を残し回覧し、いつでも見られる様にしている			○	3ヶ月に1回の介護計画見直し時のカンファレンス時に計画内容について検討することで把握・理解につなげている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	アセスメントシート・モニタリングシートを作成し、共有している			○	モニタリングシートに、ケアが実践できたかを毎日◎○△×で記入している。介護計画の支援内容に番号を振っており、介護記録には、番号とその結果どうだったかを記録している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	介護記録に残すようにしているが、職員により内容の具体差がある			○	介護記録に、言葉、しぐさ、行動、エピソードを記録している。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カンファレンス・勉強会議事録で残すようにしている			○	介護計画の内容に関わらず、ミーティング議事録(カンファレンス記録)に記録している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月に1度、カンファレンスで見直している			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理し、3ヶ月に1回、見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	3ヶ月に1回のカンファレンス・2か月に1回の勉強会で話し合い見直している			x	3ヶ月に1回の見直し時のカンファレンスで現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	出きるだけ早期に、状態に合わせて見直している			○	看取り支援時、家族、医師、管理者で話し合い、新たな計画を作成した事例がみられた。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	3ヶ月に1回のカンファレンス、もしくは必要時に応じて緊急会議を行っている			◎	2ヶ月に1回の勉強会と、3ヶ月に1回カンファレンス時に集まる機会を持っており、勉強会の記録や、ミーティング議事録(カンファレンスの記録)を作成している。緊急案件がある場合は、その日の勤務職員で話し合い、連絡ノートに記入している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員全員に意見を聞く様にしている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	前もって日時を決め、全員参加してもらっている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録にまとめて、全員に確認してもらっている			◎	会議の年間スケジュールを決めており、全員参加を基本にしている。議事録は、内容に間違いがないかを確認後、サインするしくみをつくっている。管理者が全員のサインが揃っているか確認している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	口頭で伝え、さらに連絡帳を作って共有している			○	家族からの伝言は、連絡ノートに記入している。連絡ノートは、確認したらページ毎にサインをして、共有するしくみをつくっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	連絡帳や事務所連絡票など活用している	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望に添えるよう日々の介護を行っている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選べる利用者には選択してもらい対応しているが、職員が決めてしまう場合もある			◎	時には、食事をバイキング形式にしてプレート皿に好きなものを取って食べる機会をつくっている。また、サンドイッチを手作りするような時には、食材(卵・ツナ・レタス・ハム・チーズ)を複数用意して、好きなものをパンにはさんで食べられるようにしている。そのような取り組みの様子はつばさ新聞やブログに載せている。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日常的なコミュニケーションの中で、その都度行っている				更衣時には、自分で服を選ぶようにサポートしている。希望を伝えるにしようとする利用者には、職員が「どちらがいいですか」と聞いて、表情やしぐさで気持ちを汲み取っている。
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて介護しているが、難しいケースもある				
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	良い雰囲気作りが得意な職員もいるが、苦手な職員もいる			◎	事業所でウサギを飼っており、利用者が、エサやりをしたり、膝の上に抱いたりしてかわいがっている。事業所では、季節を感じられるような行事や楽しみごと(福笑い、書初め、七夕飾り、芋炊き会、もちつきなど)を行っている。その様子は、つばさ新聞やブログに載せている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情やしぐさ等から対応できていると思う				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	基本的に人格・尊厳を大切にしている職員がほとんどだが、声かけの選択役を間違える職員もいる	◎	◎	◎	入職時に代表者が人権や尊厳について研修を行っている。また、勉強会時に、身体拘束や高齢者虐待について学んでいる。代表者は、言葉遣いなど職員の気になることがあれば、ミーティングの議題などに挙げて話し合っている。調査訪問時、職員は、利用者に接する前には、一言声をかけてからかかわっていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	ほとんどの職員はできているが、一部の職員はさりげない言葉かけができていない			◎	食事中、エプロンを外そうとする利用者の様子を見て、職員は側まで行って、耳元で「御手洗いきますか」と声をかけていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	できていると思う				昼食後、職員は、利用者のひとりに食器洗いをお願いしていた。利用者が台所まで安全に行けるように、椅子から立ち上がるのを確認してから、通路の椅子などを寄せて通りやすくして、移動を見守っていた。
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室にいる時はノックして訪室するなど、配慮している			○	職員は、ノックしてから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ブログに写真や名前を入れる時は、モザイクかけたりイニシャル表記にしている。入職時に誓約書にプライバシー保護の文言がありサインしている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	日常的に手伝って頂くなど、信頼関係を築いていると思う				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	食器洗いや洗濯物たたむ等、一緒にできる事を手伝ってもらって、その都度感謝を伝えている				トラブルになりそうな時は、職員が間に入り、それとなく距離をとったり、関係性を見ながら席替えをしたりしている。
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	トラブルになりそうな時、なった時はすぐに職員が間に入って対応してます			◎	調査訪問時、大きな声で話す利用者のことが気になる人がおり、職員がそれぞれに話して対応していた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル当事者だけでなく、他利用者のフォローもしている				昼食時、流れている歌謡曲に合わせて歌う利用者がおり、隣の席の利用者が音頭をとるなどしていた。歌入で、かるたやトランプをしたり、季節の飾りをつくり、利用者同士で楽しめるような雰囲気をつくっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人・家族の聞き取りで、情報をもらい把握している				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人・家族の聞き取りで、情報をもらい把握している					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	2月からはコロナ過で外出支援はほぼできていない					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	2月からのコロナ過で面会は窓ガラス越しにさせてもらっている					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出の機会は減っている	○	○	△	周辺の散歩や事業所から直接行ける公園に行ってみるような機会をつくっているが、機会は少ない。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力が得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過で外出できないし、職員以外に頼むことはまず無理です					
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	散歩程度で外に出る事はある				△	車いすの利用者も同じように支援しているが、機会は少ない。 庭先に出て、花の水やりをする様子をつばさ新聞に載せている。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ過で外出自体が出来ていない					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態の変化は早期に判断できるが、要因をひもとき取り除くケアの確立は難しい					
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	ケアの中で自然に歩行距離を延ばしたり、嚥下機能向上に口腔ケアシート活用などしている					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	○	自分でできる事はなるべくしてもらうようにしている	○		◎	日々の中で、利用者が家事や季節の飾りづくりなどを行う機会を多く作り、一緒に行ったり見守ったりして支援している。	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	壁飾り作成と一緒にしてもらったり絵を描いてもらい展示するなどしている					
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できることを等わない介護をしている。歌をうたったり、レクリエーションに参加してもらっている	○	○	◎	洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、食器洗い・拭きなど、個々に役割や出番をつくる取り組みを行っている 月に数回、おやつを手作りしており、利用者同士で協力し合って作って一緒に食べるような場面をつくり、個々の楽しみとなるよう支援している。	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	駄菓子屋の店番も今はコロナ過で出来ず、地域での役割もない状態					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自己決定できる利用者は自由にももらっている					
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	◎	好みの物を家族に持ってきてもらったり、一緒に買い物に行って選ぶようになっている					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員のセンスによるが、服をチョイスしたり「どっちがいい？」など選んでもらっている					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナ過までは外出に服を選んだりしていたが、今は季節に合わせた服装で、行事に参加してアイテムをプラスしてもらっている					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	起床時の整容、食べこぼしにミニハンカチを用意して対応している	◎	◎	○	食事中は、テーブルの上にティッシュボックスを用意している。	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	望む美容室には行けていない、コロナ過で訪問カット1人で対応してもらっている。以前は美容室まで送迎していた					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	家族へ購入をお願いしたり、所持していた服装に近い物を購入してもらったりしている				○	首元にスカーフを巻いたり、ブローチを付けたりしている利用者の写真をつばさ新聞に載せていた。 お気に入りの決まった服で出かける利用者や、自宅ではパジャマで過ごすことが多かった利用者など、個々の習慣を大切に継続することを支援している

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	出来るだけ自力摂取してもらるように、形状を変えたり工夫している				献立づくりや調理は、職員が行っている。 買い物は、利用者も行くことがあったが、現在は、COVID-19感染予防のため職員が行っている。 昼食後、利用者二人が台所で食器洗いをする様子がみられた。 利用者は、職員と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、調理をしたりしており、その様子をつばさ新聞やブログに載せている。 献立には、旬の食材を探り入れている。 事業所の畑で採れた野菜(ネギ、オクラ、トマト、ナスなど)を使用している。 茶碗や湯飲み、箸等は、家族が持参したものを自分専用にして使用している。 調査訪問日の昼食時、職員は、介助に専念し、落ち着いた頃に連れて、利用者と同じテーブルで同じものを食べていた。職員は、「美味しいですか」「ゆっくり食べよ」などと声かけしながらサポートしていた。 オープンキッチンになっており、料理を作る音や匂いがしていた。 ホワイトボードに1日の献立を書いていた。 定期的に話し合うような機会は持っていない。 その都度、献立のバランスなどについて職員で話し合っている。代表者は、調理師免許を有しており、食材の切り方や調理方法などについて、職員にアドバイスするようなこともある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出来る利用者にはなるべく手伝ってもらっている			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	自分の役目と思っている利用者もいて、達成感につながっていると思う				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	事前に聞き取りをして、職員間で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	メニューに旬の物を取り入れる様にしている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	1度ミキサー食にしても、本人が食べにくいようなら部分的に刻みにしり対応している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人の使いやすい物、好きな物なるべく選んでいる			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	◎	利用者と一緒に食事し、見守りながらサポートしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理時にリビングで調理音やにおいを感じる様にしている	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	医療機関の血液検査結果や体重測定で、食事を量を決めている。また10時15時のおやつ時に水分補給している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ない利用者には栄養補助ドリンクや食事時間をずらして提供するなどしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	バランス良く献立をたてていると思う			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に消毒したり、食中毒にならないようになるべく出来たてを食べてもらえるように調理時間を工夫している				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後の口腔ケアを実施し、夕食後は義歯を預かり毎日消毒している				職員が、口腔ケア時に目視している。代表者は、歯科技工士の免許を有しており、異常があれば確認して、受診につなげている。 口腔ケアを自分で行う人については、職員が口腔内の状況を把握することが難しいようだ。 毎食後、口腔ケアを支援している。口腔ケアを自分で行う人については、本人に任せている。 昼食後、職員は、洗面台に歯磨きセットを準備して誘導したり、本人が歯磨きを始めるのを確認してから、離れた場所で見守ったりしていた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	介助できる利用者は把握している			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師に来てもらってレクチャー受けている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	就寝時には義歯を預かり洗浄・消毒している				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	介助できる利用者はチェックできている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	その都度、歯科医師に相談している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	座位が取れる間はなるべくトイレ誘導し、排泄を促している				職員の気づきや利用者の希望などがあればその都度、話し合っている。連絡ノートを使って、対応等について意見を聞き、支援につなげるケースもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	身体面・精神面に影響があることを認識している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	ポータブルトイレを導入している利用者もいて、おむつと併用しながらトイレで排泄できるように工夫している	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	緩下剤や便秘薬・水分摂取など出来る事から取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人の様子を見ながら誘導したり、緩下剤の量や時間を変更しながら様子みている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族と相談しながら使い分けしている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	使い分け出来ていると思う				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	10時・15時のおやつと水分補給、ヨーグルト摂取など取り組んでいる				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	声かけて、入れる人は毎日でも入浴できる	◎			2~3日に1回、入浴を支援している。湯温や長さはその都度、確認しながら支援している。「ひとりで入りたい」と希望する利用者には、ひとりで安全に入浴できるように、職員が脱衣所から時々声をかけて見守っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	長湯をしない程度で利用者ペースで入浴できている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	全て職員が介助するのではなく、自分で洗える所は洗ってもらっている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いはせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声かけの工夫や職員の交代など工夫して、無理強いはせず入浴出来ていると思う				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルチェックと、本人の様子をみて判断し入浴してもらっている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握できていると思うが、たまに不眠なときもある				現在、薬剤内服者が5名いる。往診時、医師に睡眠時間や、日中の様子などについて報告して、相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたり、リビングで日に当たって昼と夜の区別をつけてもらったりしている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	上記の事も踏まえて、医師と相談して支援している				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝する時間を取り、足の浮腫軽減や予防にも繋がっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族に絵葉書をだしたり、要望があれば電話して話せる様に支援している				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	年賀状と一緒に作ったり、意思疎通が難しい利用者は請求書に写真を添えたりしている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	大勢がいるリビングではなく、自室で話してもらっている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	絵手紙を書いて返信したり、手紙のお礼を電話でもらったりしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	認知症が進み何度も時間問わず家族に電話して、迷惑をかけてしまう利用者もいるので、家族からかけてもらえるように支援している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	全ての職員が理解できている訳ではないが、十分理解している				/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	△	以前は出来ていたが、コロナ過では難しい					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	以前は出来ていたが、コロナ過では難しい					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	以前は出来ていたが、コロナ過では難しい					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族とも相談し盗られ妄想が多い為、ホームで管理して買い物時に出すようにしている					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お小遣い帳の記入と領収書の管理を徹底している					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	幅広く対応できるようにしている(墓参り・美容室送迎・病院受診・買い物・町内行事の参加)	◎		◎	利用者から「飼犬に会いたい」と希望があれば、家族に連絡して連れて来てもらっている。法事への参加について、職員が送迎などしてサポートした事例がある。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	夜間以外は施錠せず、いつでも出入りが出来るようになっている。敷地を通って裏の公園に行けるようにしているので近隣住民とあいさつする機会も多い	◎	◎	◎	玄関周りは掃除が行き届き、スロープと手すりが付いている。玄関前にベンチを並べていた。玄関内には、文庫本を置いており、来訪した家族や地域の人へ貸出している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない移風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	◎	季節にあった壁飾りを利用者と一緒に制作したりしている	◎	◎	◎	廊下や居間の壁面に、手作りの日めくりカレンダーや季節の飾り、利用者の写真などを飾っている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	換気・掃除はこまめにしている			◎	居間の窓から玄関先や庭の様子が見えて、車で出かける職員に利用者が手を振って見送っていた。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	旬な食材を調理したり、季節のイベントや壁飾り等で工夫している			◎	居間は掃除が行き届き、加湿器を設置している。気になる臭いなどは感じなかった。窓は、開口部分が天井近くまであり、自然光が入り明るい。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	セカンドリビングや廊下のソファなど置き交流の場として利用してもらっている				◎	階ユニットでは、利用者がウサギを「うーちゃん」と呼んでかわいがっていた。壁面には、ぶどう、柿、さんまなどの飾り付けをしていた。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	のれん等の使用で直接見えない様に配慮している					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居時に、今まで使っていた物をなるべく持ってきて頂き、自分の物があることでトランスファーダメージも軽減している	◎		○	テレビ、仏壇、テーブル、収納棚などを持ち込んでいる居室がみられた。新聞を読んだり、テレビを見たり、編み物をしたりして過ごすような人がいる。絵を描くことが好きな利用者は、水墨画などの画集を置いていた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	わかりやすく表示している			○	「便所電気こちらす！」とトイレの電気のスイッチの上に貼り紙をしていた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者が誤認する様な環境は、できるだけないように職員間でいつも話しあって対応している					
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	自由に手に取れるようにしている					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	ミーティング時や勉強会でも玄関に施錠することさえも拘束の一部であると職員全員が理解している	◎	◎	◎	日中は、鍵をかけていない。2月の身体拘束についての事業所内勉強会時に、鍵をかけることの弊害について学んでいる。その内容をつばさ新聞に掲載している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	理解して入居してもらっている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけたなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	夜間以外の施錠はしていない					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用前調査で入所以前から把握している				/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	口頭でも伝えるが、連絡帳や介護記録にも記入し共有している					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護師に相談し、いつでも主治医に相談できるようにしている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望があればセカンドオピニオンとして受診できるようにしている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望があればセカンドオピニオンとして受診できるようにしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	なるべく主治医以外の受診には家族も同席してもらい、同席できない場合は結果報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時の情報提供は必ず行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	面会時や電話などで相談し、地域連携室とも連絡とっている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	地域連携室とも連絡とって関係づくりをしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護師にその都度報告し相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡できる体制を取っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	訪問看護ステーションと主治医が連携をとれる体制をとっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	確薬できている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々利用者を見て確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬が変更した場合、家族に報告し服薬で利用者に変化があった時は随時、薬剤師・看護師・医師に相談している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時にアンケートを取り、面会時等で話しあって意向を確認している				入居時に、本人、家族に看取りの指針に沿って説明している。家族には、終末期・看取りについてのアンケートを記入してもらっている。利用者の希望は私の姿と気持ちシートに記録している。状態変化時には、再度希望を確認して、医師、家族、職員での話し合いの場を持ち、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ミーティング時に共有したり、主治医・看護師にも相談している	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員と話しあい勤務交代をするなど対応している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	その都度説明し理解してもらっている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	連携をとっている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	声かけや電話などで家族の心情を探り支えている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会の題材にもして定期的に学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成し、勉強会も行っている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新情報を取り入れ閲覧している				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	閲覧で情報共有している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時の消毒・手洗いうがい・体温測定を義務づけている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者の様子を伝え協力できるところはもっている				お花見、夏祭り、羊炊きは、家族会も兼ねて行っているが、今年は、COVID-19感染予防のため中止している。5月より、居間の窓越しで、面会ができるようにしている。 ユニット別に毎月発行するつばさ新聞で日々の取り組みや利用者の様子を報告している。また、毎週月曜日には事業所ブログを更新して発信している。毎月の送付書類には、写真とともに、職員から本人の様子についてのコメントを添えている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナ過で面会はガラス越しに限定しもっている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ過で面会は制限させてもっている	◎		x	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(1つよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	新聞を毎月・各ユニットごとに作成し、送っている 請求書に写真を入れて送っている	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話などで相談し、報告している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	運営推進会議や家族会で認知症の勉強会を開いたり、認知症の疑問について話す機会をもっている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議議事録を作り、人事を含め事業所の報告をしている	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	コロナ過で2月から出来ていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	その都度説明している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時に聞き取りや、ケアプラン説明時に連絡をとっている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に書類を持って帰ってじっくり読んで頂き理解・納得した上で署名・捺印してもらっている				運営推進会議時に、行事や職員の入・退職、さすまたを購入したこと等を報告している。
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	納得してもらっている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約書・重要事項説明書に記載し納得の上、署名・捺印してもらっている				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	経営者が地元住民であるので、普段から理解してもらっている		◎		公園や近所を散歩する際に、地域の人とあいさつを交わしたり、話をしたりしている。 町内会に加入しており、つばさ新聞には、車いすの利用者と職員で回覧板を回す様子を載せていた。 土、日曜日は、1階ユニットの居間にお菓子や並べ、駄菓子屋を開店し、利用者が店番をしながらやって来た子供たちと交流しているが、現在は、COVID-19感染予防のため中止している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内行事にはできるだけ参加している		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナ過で増えているとは言い難い				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	コロナ過以前は駄菓子屋をしていて、交流があった				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常のおつきあいをしている。	○	裏の公園への通路を解放しているので、ガラス越しだがあいさつ等している				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で外出さえ難しい				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	外出が難しい				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力ができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	外出が難しい				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナまでは参加してもらっていた	◎		△	毎回、利用者や家族、地域の人(公民館館長や町内会役員、民生委員など)の参加がある。羊坎きや避難訓練と併せて実施している。(COVID-19感染予防のため4・5・7・10月は書面会議)
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している			○	会議時には、利用者の入退居、取り組みなどを報告している。外部評価結果や目標達成計画について口頭で報告している。昨年の自己評価については報告していない。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かす、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議をコロナで書面上でさせてもらっているの、意見等ある場合ホームに連絡してもらおうとしているが、まだない	◎		△	意見や提案等は少なく、取り組みに活かし、その結果を報告するまでには至っていない。地域メンバーより「認知症カフェを開催したらよいのではないか」という意見があり、代表者は将来的に検討していきたいと考えていた。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナまではしていた			◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を送っている				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	目につく場所に掲示し、職員が入職した時に書面で渡している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	目につく場所に掲示してある	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者、基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の回覧しているが、行けてない現状である社内研修は全員参加してます				代表者は、年2回、考課表をもとに職員と面談している。また、シフトに入って現場で職員と一緒に取り組みながら意見などを聞いている。代表者はミーティング時などを捉えて、「ストレスマネジメント」や「趣味をもつことの大切さ」などについて職員に話している。年1回、慰労会(忘年会)をしている。誕生日休暇(1日)の制度がある。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	社内研修(勉強会)を職員が持ち回りで担当し、発表する場としている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	キャリアパスシステムで10段階での能力評価があり、出来る事が増えると給与が増えるシステムになっている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナで出来ていない、研修は回覧している				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	慰労会や誕生日休暇など、ストレスマネジメントの話もしている	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会の題材にもなっており、定期的に学んでいる				職員は、不適切なケアを発見した場合は、「その場で注意して管理者に報告すること」を認識している。ミーティングの議題に挙げて話し合うこともあるようだ。昨年12月の職員勉強会時には、高齢者虐待について学んでおり、その内容をつばさ新聞に載せている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の会話の中で話したり、カンファレンス・勉強会の場で意見交換している				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	発見した場合、話しあって注意したり、管理者から助言してもらったりしている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者も職員の一員として働き常にチェックしている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会の題材にもなっており、定期的に学んでいる				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	日常的にも勉強会の場でも話しあっている				
		c	家族等から拘束や錠錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を話し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	なるべく拘束を行わない介護をしている事を理解してもらっていて、どうしても拘束しないといけない状態になったら相談している				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	勉強会の題材にもなっており、定期的に学んでいる				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、ハンズオン等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	提案することぐらいしか出来る事はないが、相談があれば対応している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるように、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	連携を取っているが、今まで利用された利用者はいない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	勉強会の題材の一つなので定期的に勉強し、マニュアルも作って周知している				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練は実施していない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを活用し全員で閲覧している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度話しあっている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情には一般職員は対応しておらず、必ず管理者以上が対応するようにしています				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	社長に報告し対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	社長に報告し迅速に対応している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見ポストを設置したり、運営推進会議や職員の聞き込み等で情報を得ている			○	運営推進会議時に参加する利用者は機会がある。日々の中で、個別に訊いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見ポストを設置したり、運営推進会議や職員の聞き込み等で情報を得ている	◎		○	運営推進会議に参加する家族は、機会がある。管理者がそれぞれの家族に、個別に声をかけて訊いている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に苦情申し立て方法や連絡先など記載し、公的窓口の情報を載せている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	出勤時、常に情報を取っている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	給与面談時や勤務で一对一になった時等で意見交換している				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	出来る範囲内で行っている				運営推進会議時に外部評価結果や目標達成計画について口頭で報告している。昨年の自己評価については報告していない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価と課題を出して向上を図っている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し改善に取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議などで報告しているがモニターまではしてもらっていない	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で話しあっている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している				火災発生時などは、町内放送で知らせるなど、協力しもらえる体制を確保している。昨年11月の避難訓練は、地域住民や家族の参加があり、駐車場へ避難した利用者の見守り役をお願いした。訓練の後には、参加メンバーで避難や防災について話し合っている。地域の防災訓練時には、利用者と職員が参加した。代表者は地域の防災士として参加している。伊方原子力災害時は、大洲市のグループホームを受け入れることになっている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練時に想定を色々変更して訓練している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	避難訓練に参加・協力してもらい、協力体制を維持している	○	◎	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	経営者が防災士で自治体の災害訓練に参加したり、防災士の集いにも参加している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	町内会や地域会議で認知症の話をしたり、災害時に助けて頂ける様に声をかけするくらい				代表者は、町内会や防災士の会の介護相談担当者になっており、月1回程度、相談支援を行っている。 駄菓子屋を開店している日に、散歩途中の地域の高齢者が相談に来て、管理者が介護保険や生活保護などについて説明した事例がある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	介護相談等している		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ過前は駄菓子屋で地域の人を交流も多かったが、今は出来ない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	以前はヘルパー2級の実習場所として提供していたが、今はしていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	可能な限り参加している			○	